

科目名	臨床薬理学						授業の種類	講義	必修・選択		必修
授業回数	15	回	時間数	30	時間	1	単位	配当学年時期	2年	前期	
【授業の目的・ねらい】 臨床工学技士は救急医療から慢性期医療まで幅広い領域と分野で業務にあたり、種々の病態の患者さんと接することとなります。本講座では薬の作用機序だけでなく、使用方法と適応疾患を知ること、安全な使用と病態把握ができるようになることを目的としています。											
【実務者経験】											
【授業全体の内容の概要】 薬の作用機序と標的となる臓器、疾患に関する知識を解説すると同時に、臨床工学技士がどのような状況で当該薬を用いるかを合わせて講義する。											
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 ・臨床工学技士の業務領域で用いられる薬剤の名称と薬効を正しく判断できる。 ・薬剤の作用と適応疾患を結びつけて説明することができる。											
回数	講義内容										準備物(教材)
1	授業ガイダンスにより講義概要と授業のポイントを知る										
2	薬の概要と投与経路を説明できるようになる										
3	薬効と薬物動態の概要について説明できるようになる										
4	消化器分野で用いられる薬剤の適応と投与方法についての知識を身につける										
5	循環器分野で用いられる薬剤の適応と投与方法についての知識を身につける										
6	血液に関連する薬剤の適切な仕様方法についての知識を身につける										
7	呼吸器分野で用いられる薬剤の適応と投与方法についての知識を身につける										
8	内分泌分野で用いられる薬剤の適応と投与方法についての知識を身につける										
9	抗菌薬の適切な使用方法についての知識を身につける										
10	抗炎症薬の適切な使用方法についての知識を身につける										
11	抗がん剤の適応と投与方法についての知識を身につける										
12	神経に作用する薬剤の適応と投与方法についての知識を身につける①										
13	神経に作用する薬剤の適応と投与方法についての知識を身につける②										
14	その他の薬剤や造影剤の使用法についての知識を身につける										
15	復習とまとめを行い、筆記試験の準備ができる										
定期筆記試験											
【使用教科書・教材・参考書】 ・FLASH薬理学、丸山 敬、羊土社											
【準備学習・時間外学習】 ・準備学習としてシラバスを参考に教科書の当該箇所を十分に読み込んで講義に臨むこと ・講義後は復習を必ず行い、要点を自分なりにまとめること											
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する 小テストを40点、定期試験を60点として合計100点とする 60点以上の場合に科目を認定する											